

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3371100375		
法人名	(株)メディカメント		
事業所名	グループホームいやしの家備前		
所在地	岡山県備前市伊部323-1		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 18 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3371100375-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3371100375-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ランチピース		
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 6 年 3 月 2 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

備前市は昔から備前焼の里として知られ、その中心街の近くにホームがあり、静かな環境の中で生活をしています。季節によりますが、午前中は日光浴をかね玄関先のベンチでおしゃべりをしたり体操をしたり時にはお茶をしたりしています。朝昼夕の食事を楽しみ、1人1人の特性を活かし塗り絵や編み物など様々なその人が出来ることを日々の生活の中で楽しんで頂いています。午後は洗濯物畳みなどそれぞれの方が出来ることなど自由に過ごして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の前方を山陽新幹線が走り、田んぼからは雲雀のさえずりが聞こえる。日当たりの良い玄関先では利用者が日々、日光浴や体操をして過ごしている。事業所の優れている点として挙げられるのは、次の二つである。第一に、ケア記録アプリを導入し端末で管理することで、職員の業務負担が軽減していること。アプリは薬局ともつながっている。第二に、食事は職員が3食手作りして一緒に食べながら利用者の状況を日々、細やかに把握していることがある。工夫点としては、まず利用者に対する職員の声かけが穏やかで丁寧なこと。次に、利用者の食事の形態をそれぞれのコップの裏に記入し、配膳ミスを防ぐとともに、配る時間の削減に努めていること。三つ目として、プライバシーに配慮しながら、利用者の入浴予定日を掲示していることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに3つの理念を掲げ1か月ごとのカンファレンスで共有している。	洗面所・廊下・スタッフルーム等に理念を掲示するとともに、月に一度のカンファレンスで毎回、議事録に表示している理念を唱和することで共有している。気になる点については、職員同士も声をかけ合って実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	絵手紙サークルの作品を預かり玄関ホールに掲示したり地元中学生から雑巾の寄付や計算問題の提供などの間接的な交流あり。	コロナ禍以前はボランティアや中学生の職場体験等を受け入れていた。また、地域の祭りにも参加していた。現在は、絵手紙のサークルから届けられた作品を玄関に飾ったり、中学校から届けられたパズル・計算問題、子どもたちの作った雑巾を活用したりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年夏休みに中学生のボランティアを受け入れていたが新型コロナウイルスの影響により実施できず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年6月より運営推進会議を再開しており、情報共有等を行っている。	昨年の5月から対面による運営推進会議を2ヶ月に一度、開催している。参加者は、民生委員・介護保険課・包括支援センター・家族等である。出された意見は畑での野菜作りに反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況など必要に応じて連絡をとっている。	本部と役割を分担して連携している。事業所では管理者が窓口となり、メール・FAX等により、細やかな連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を2か月に1度行い基本的な禁止の対象を理解し、疑問などは話し合い拘束のないケアに取り組んでいる。	管理者が中心となり2ヶ月に一度、身体拘束適正委員会を開催して疑問等を出し合っている。とりわけ言葉かけについては活発な意見交換がされている。また、月に一度のカンファレンスの場でも研修し、拘束の必要のないケアにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については事業所内の研修資料などを基に研修会を開き職員の理解と知識の向上をはかり防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加して学んだことは職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定時など分かりやすい言葉を使い質問しやすい雰囲気作り心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族や行政に出席していただき近況報告をしたり意見を聞いて運営に反映している。	利用者はレクリエーションや食事の時間に、家族とは面会時を中心に話し合っ意見を聴いている。出された意見は、食事のメニューや衣替え等に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月毎のカンファレンスで職員の意見や提案を聞いて運営に反映させている。	毎月実施しているカンファレンス・日常のケアを通して職員の意見を聴いている。出された意見は、勤務体制の見直しや物品の購入等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一回、管理委員会があるので施設長が代表者に状況報告し環境の整備や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を確保しやすいようシフトを調整し協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの管理者が定期的に集まり報告会を開いて質の向上の取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安の多い初期には細かな配慮を心掛け、不安なく過ごせる工夫に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後初期の面会時には細かく生活の様子を話し安心していただけるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の好みや家族の要望を見極め必要とする支援を行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能を活かせるように過度な介護はせず家事などの出来ることを職員と一緒にしてもらえるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会自体は制限があるがその中で、情報共有を行い、日頃の様子など、報告し安心して安全な環境の中で支えていくことを常に心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないよう対応を心がけている。	家族からの手紙や誕生日のメッセージ・電話、友人等の電話の取次ぎに丁寧に対応し、関係が継続できるよう努めている。また、事業所から全ての家族に年賀状を出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理をせず利用者の個性を大切にしつつ利用者同士が支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても訪問しやすい環境を作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の意思を尊重して出来るだけ希望に添えるようにしている。	レクリエーションや食事の時間に利用者一人ひとりに寄り添い、その思いや意向を聴いて食事のメニューや詩を書くこと等に反映している。困難な場合は、家族との連携や過去の記録、表情等から判断し、本人本位となるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に今までの生活歴の聞き取りをしっかりとし入居後に活かしつつその後のご本人との会話の中で発見していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日頃からしっかり様子観察をいつもと違うことがあれば申し送りをつないでいくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1か月ごとのカンファレンスでモニタリングを行い家族の意見を参考に作成している。	ケアマネジャーが作成した暫定プランを1~2ヶ月実施した後、月に一度のカンファレンスで職員間で検討している。見直しは1年を基本としているが、状況に応じて柔軟に行っている。モニタリングは日々、丁寧に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活が見えるような記入にしており、家族、職員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までの生活歴や家族の状況に合わせ1人1人のニーズにあった対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのイベントなどに参加して楽しめるように支援している。現在は新型コロナウイルスの影響により思うように参加できず。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人とかかりつけ医の関係が継続出来るように納得のいく医療を受けられるよう支援している。	それぞれのユニットに月2回訪問があるので、利用者一人ひとりの状況に応じた診察を随時、受けることが出来る。また、週に一度、訪問看護が入っており、医療面での安心感を利用者・家族にもたしている。多くの利用者が訪問歯科の口腔ケアを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期の訪問看護で看護師に報告し指示をもらい受診の相談を主治医と相談してもらい適切な支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	往診時や訪問看護時に適宜必要な情報交換、共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が無い場合、家族、訪問看護、主治医と看取りの話し合いをし納得のいく支援に取り組んでいる。	利用開始時に事業所として、出来ること・出来ないことを伝えている。重度化した場合、医師・家族・事業所で丁寧に話し合っている。食事や水分を自力で摂取出来なくなった場合は、療養を希望する家族が多いのが現状である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から様子観察をしっかり行い。申し送りや初期対応の時期を逃さない実践力を職員は身に付ける。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼、夜の想定でそれぞれの避難訓練を年2回行っている。	利用者も参加してユニット合同で年に2回、夜間と昼間を想定した避難訓練を実施している。備蓄として、水・スポーツドリンク・カセットコンロを備えている。	いつ起きるか分からない災害に備え、備蓄品の質と量の確認をお勧めします。また、訓練時には地域に声をかけることや家族の参加も検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格を把握、尊重した対応を心掛けている。	日常的に一人ひとりの個性の把握に努め、利用者それぞれのしたいことが出来るよう、支援している。とりわけ入浴時やトイレ介助時にはプライバシーの確保が出来るよう、配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活ケアにおいて利用者の状態やその時の気分において対応し、職員は業務優先にならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	押し付けにならないように1人1人のペースに沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選んでもらったり、意思表示をしにくい方には同じ服にならない配慮をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節メニューや誕生日にはちらし寿司などをしたりと食事が楽しめるようにしている。食事後におぼん拭きなどの後片付けも一緒にしている。	職員が材料を買い、交代で3食手作りしている。職員も利用者と一緒に和やかに食事している。ひな祭り等の行事食や畑で栽培した野菜も食材として使用することもある。テーブル拭きを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食事量や体調を把握し、適宜調整をしたりし支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。出来ないところは介助し入眠前には義歯の消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックでパターンを把握し1人1人にあったトイレ誘導を行い一部介助や見守りで対応している。日中は全員がトイレでの排泄をし夜間は利用者の状態に合わせている。	細やかな記録と丁寧な言葉かけにより、日中は全員がトイレで排泄している。夜間は睡眠を優先しながらも、一人ひとりに応じた対応となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人1人の排泄パターンを把握し飲み物の工夫や軽い運動や薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人の希望も取り入れて入浴を楽しめるように支援している。入浴後は保湿ケアに努めている。	週に2～3回、午後を中心に入浴している。入浴後に保湿クリームを塗布する等、入浴がより快適になるよう配慮している。冬季はゆず湯等も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を決めず就寝まで思い思いの時間を過ごしてもらい安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は1人1人の薬を把握しており薬の相談等がある時は薬剤師に尋ね納得のいく服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の出来る事を活かし日常の中で様々なことを楽しみながら、個性を尊重し役割が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は新型コロナウイルスの影響によりホームの敷地外へはほとんど外出は出来ていないが、普段は積極的に外出を支援をしている。平時の場合は家族の方に外出のお願いをしている。	コロナ禍以前は外出に努めていたが、現在は玄関前での日光浴や体操・野菜の世話・敷地内の散歩等で外気に触れるよう努めている。4月の花見は今年度も継続する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば代理で買い物する支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から友人や親戚の連絡先を聞きご本人の希望が叶うように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招くような物や障害になる物は除き季節感のある壁画や装飾品などで工夫している。感染対策をこころがけ換気なども行う。	共用空間の温度や湿度は適切に管理され、空気の淀みもない。廊下の天井に天窓が付けられ、穏やかな日差しが入っている。玄関や壁には季節を表すちぎり絵や壁飾り等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファがあるTVコーナーなど思い思いに過ごせる居場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はタンスの上に写真などを飾り、本人にとって居心地の良い過ごしやすい状態にしている。	カレンダーやテレビ、鏡等が持ち込まれ、それぞれの生活を楽しんでいる。好みの番組を毎回、楽しんでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動出来るよう配慮し分かりやすく色々と表示している		